

親が安心して働けるように

テックイーが二酸化炭素濃度計寄贈

電子・電気機器の中でも細かい調整が必要な手作業の生産を得意とする株式会社テックイーの小山内公樹社長が9月10日(金)に町長のもとを訪れ、社会貢献活動の一環として、同社を含む3社で共同開発され、8月に完成したばかりの二酸化炭素濃度計10台を寄贈しました。

寄贈された濃度計は、二酸化炭素濃度だけでなく温度や湿度も測ることができ、二酸化炭素濃度が一定の数値に達すると警報が鳴るようになっています。また、警報が鳴る数値などの設定も自由に変えることができ、場所ごとに使い分けることができるため、こども園や児童クラブなどの子どもたちがたくさん集まる場所に置かれる予定です。

町長は「ありがとうございます。親も安心して働くことができます」と感謝していました。

小泊出身でもある小山内さんは「濃度計を活用していただくことで、クラスターが発生することなく地元の子どものびのびと育ていただければ」と話していました。



宇宙の味はどんな味？

薄市こども園が宇宙毛豆の収穫体験

国際宇宙ステーション「きぼう」に2010年に持ち込まれた種子の遺伝子を受け継いだ宇宙毛豆の収穫体験と試食が9月24日(金)に薄市こども園で行われました。

この日は、薄市こども園の園児らが参加し、大きく実った毛豆を枝から丁寧に収穫していました。また、自分で収穫した毛豆を誇らしげに見せる様子も見られました。

収穫後は、ゆでたての宇宙毛豆を試食し、園

児たちは「おいしかった」「手に毛豆の毛がたくさんついたけど楽しかった」と笑顔で話していました。

奈良郁飛くんは「つかれたけど楽しかった」と今回の収穫を楽しんだ様子でした。

町民の声を届ける

町議会と町農業委員会から要望書提出

町議会と町農業委員会から、米価下落に対する生産者への対策を求める要望書が、9月27日(月)と30日(木)にそれぞれ町長へ提出されました。町では、各農家が加入しているナラシ対策や収入保険といったセーフティネットや国・県の対策の動向をふまえて、対策を講じることとしています。

